

データの一元化

を進める際のベストプラクティス効果的な
データ戦略の策定が
ビジネスの成否を分ける理由



データの品質を向上し、企業の戦略的資産にするには、データのプライバシー保護とリスク管理のバランスが重要です。同時に、データを最大限に活用してビジネスの成長を促進することも大切です。効果的なデータ戦略については議論が分かれるところですが、現代のデジタル社会において、データ資産の活用がビジネスの成功に不可欠であることは誰もが認めるところです。そのためには、データの一元化が欠かせません。

データ管理は、企業の成功に不可欠になりました。しかし、データ集約機能が登場した現在でも、多くの企業はデータ管理に苦戦しているのが実情です。**International Data Corporation (IDC)**によると、世界中のデータのうち、実際に分析されるのは1%未満。80%は、ウェブページやモバイルデバイスから収集された非構造化データであることが明らかになっています。また、**ハーバード・ビジネス・レビュー**は、従業員の70%が、本来開示されるべきでない情報にアクセスできる状態にあると指摘しています。このような数値は、企業がそれぞれに合った方法で、データを一元管理する重要性を浮き彫りにしています。

データの一元化

データを一元化すると、単一の情報源 (Single-source-of-truth) から信頼性の高い情報を取得して、正確な業績/動向分析や的確な意思決定を行い、業績を大きく伸ばすことができるようになります。ユーザーはデータの収集や精度のチェックに時間を取られることなく、的確な意思決定を行い、優れた顧客エクスペリエンスの提供に集中できるようになるのです。

データ戦略の策定

大企業の経営課題はそれほど大きく変化していないものの、課題への対応は複雑化しています。時間、コスト、品質のバランスを考慮すると同時に、新規市場や最新テクノロジー、海外の顧客、サプライチェーンの最適化、法的要件なども考慮しなければなりません。そのためには、組織全体の足並みを揃えるデータ戦略が必要になります。

CDOやデータ管理部門は、情報資産の整理、データガバナンス、分析、伝播を実行する上で明確な戦略が必要です。それがなければ、データの保護や活用は難航するでしょう。ビジネスの成功の鍵は、全社共通の明確なデータ戦略を構築できるかどうかにかかっています。優れたデータ管理/分析を実行できれば、経営陣の的確な意思決定が可能になり、最終的に業績を伸ばすことができるからです。

戦略を策定する際には、組織階層（エグゼクティブ、管理職、従業員）と意思決定の種類（戦略レベル、戦術レベル、運用管理レベル）に応じてデータ階層を規定し、エンドユーザーとの関連性を明らかにする必要があります（例：社内/社外、データマトリックスにおいて意図された役割など）これを図式化したものが図1です。

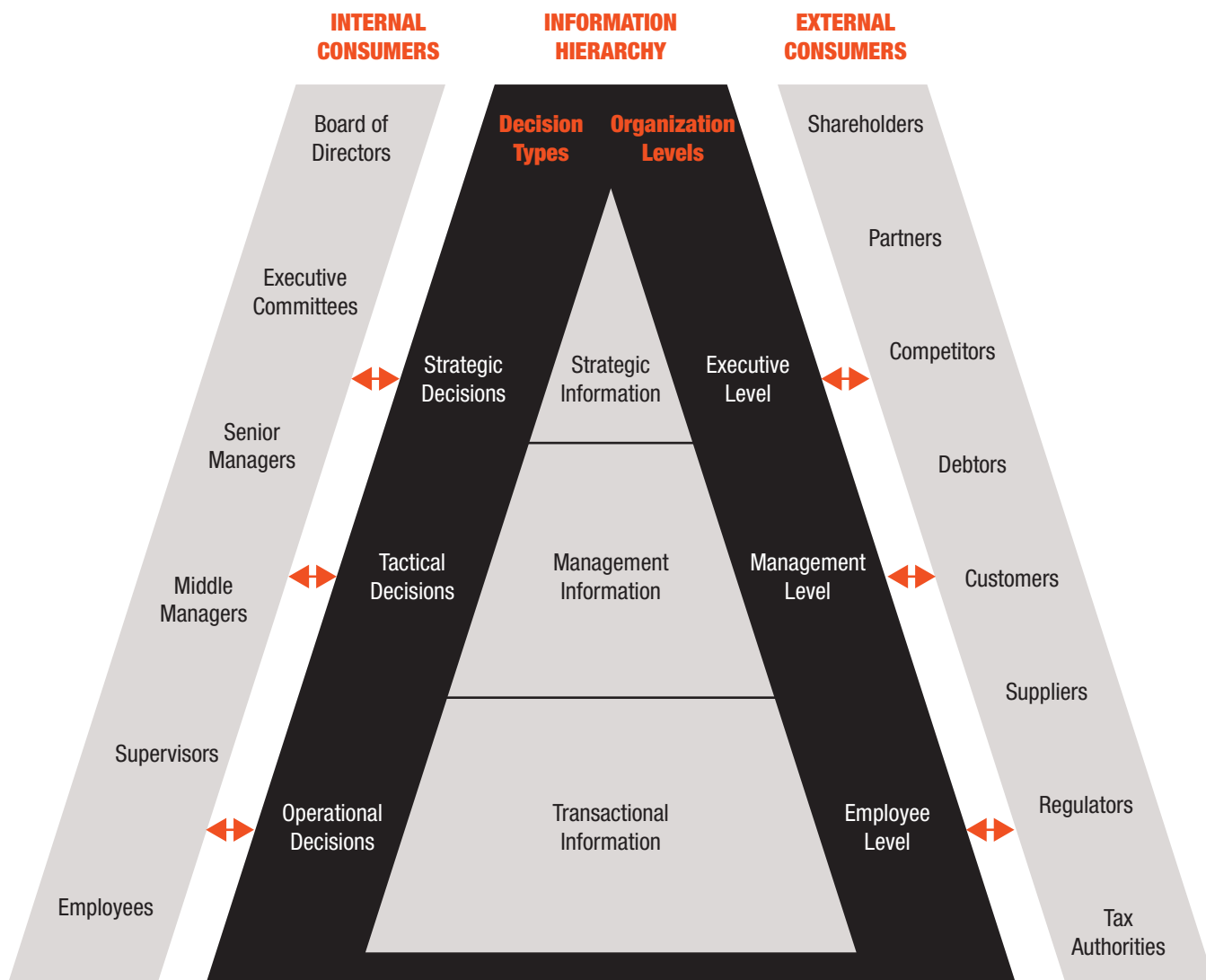


図 1

組織階層に合わせてデータを規定していく「ドリルダウン」方式。組織内で信頼性の高い、ファクトベースの意思決定を徹底し、すべての事業体で一貫性のある業績管理が可能になる。

最適なテクノロジーの採用

CDOにとっての最大の課題は、データサイロを解消し、セキュリティを損なうことなく、組織全体でデータを利用できるようにすることです。様々なシステムにデータがサイロ化（隔離）されていると、データの更新や保護、ビジネスへの活用が困難になり、コストも高まります。

マスターデータ管理 (MDM) システムを活用すれば、マスターデータを効率的に管理し、基幹データの単一情報源として運用することで、こうした問題を克服することができます。また、商品、顧客、店舗/ロケーション、従業員、サプライヤー、デジタルアセットに関するデータの識別・関連付け、シンクレーションを通して、包括的な視点からビジネスの取り組みを促進できるようになります。ただし、それを実現するためには、適切な応用が必要です。

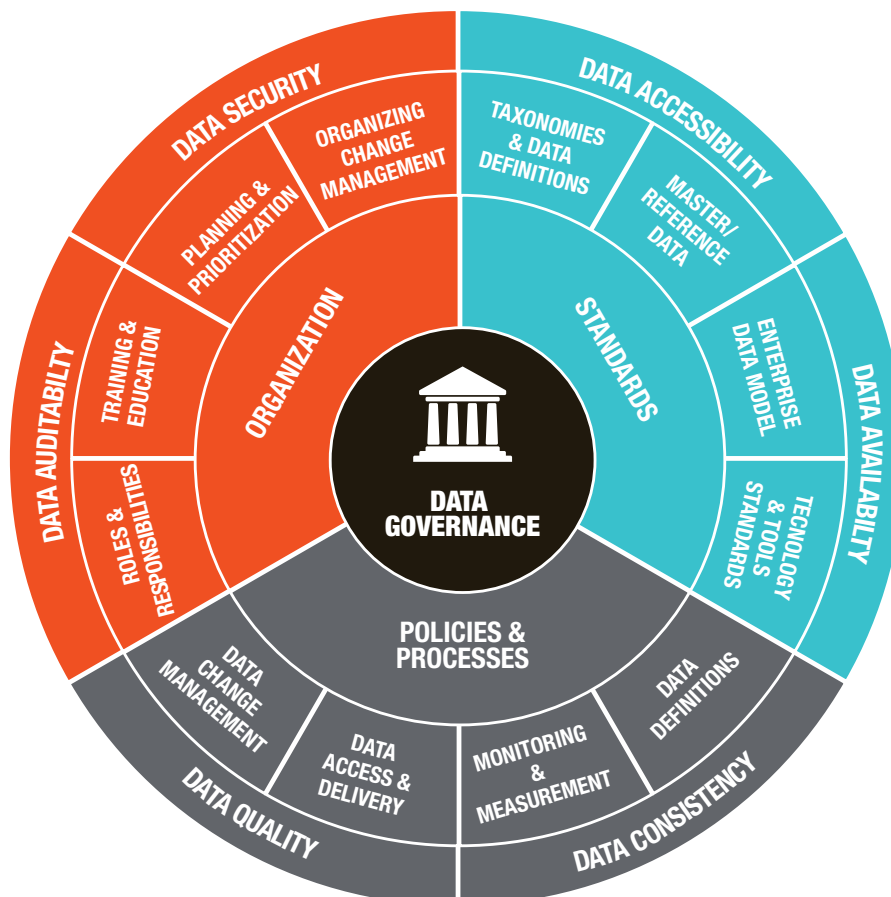
よくあるデータ問題：

- セキュリティリスク
- 不良データ
- 異種データ
- 高額な保守コスト
- 部署間の連携不足

データガバナンスの強化

データを最大限に活用するには、強力なデータガバナンスプログラムが必須です。戦略的なデータ資産として、データを構築/管理するのに役立ちます。データガバナンスプログラムが成功するかどうかは、それを支えるデータ統合インフラストラクチャにかかっています。データガバナンスプログラムの自動化、管理、拡張性の維持にはインフラが不可欠からです。データの精度や信頼性を維持するためのポリシーやプロセスの実現、バージョン管理、統合ワークフローやビジネスルールの承認を行うために必要になります。

データガバナンスを効果的に実行するための重要ポイントは、優秀なチームを編成し、一元化されたデータデポジットリに対するロールベースのセキュリティとアクセス権限を付与することです。そうすることで、情報漏洩のリスクを大幅に軽減することができます。また、システムの様々なユーザープロフィールに基づいて、編集/閲覧権限を付与することで、データの品質を維持できます。



		
情報オブジェクト定義	データ品質の定義	情報オブジェクトを変更するためのプロセス定義
データ品質維持のガイドライン	レポートの監視	ビジネスとITの連携
MDMに関する責任範囲の明確化	保守業務の定義	

管理フレームワークの設定

組織全体で使用される情報の一貫性と精度を保つためには、管理フレームワークの設定が必要です。管理フレームワークは、データ品質の継続的なチェックと改善を行い、情報が実践に役立つことを確認する方法を定義するものです。管理フレームワークを設定する際の考慮事項：

- ・ 組織全体で一貫性のあるデータを使用するために必要なルールは何か？
- ・ データ品質を継続的にチェックし、改善するにはどうするか？
- ・ 実践に即したデータ構造を保証するにはどうするか？

協力体制を整えてスムーズな根回しを

データ戦略の承認への根回しとして、製品開発チームと技術チームなど、社内のステークホルダー間の「協力セッション」を企画するとよいでしょう。CDOには、事業目標を達成するために、ビジネス側とIT側の橋渡し役となることが往々にして求められます。部署間の対話を促し、各部署に隔離されているデータ（サイロ）のフローを決めることも、CDOの役割です。こうしたタスクを効果的に行うためには、ビジネスの現状を明確に把握し、データ・サイエンス・ツールやプラットフォームに精通することが必要です。

終わりのなき道

事業目標を定義して優先順位を付け、プロジェクトや課題の優先順位を考慮し、強力なデータガバナンス・プログラムを考案して、管理フレームワークを設定し、最適なデー

タツールを選択したら、それで終わり... ではありません。データの一元化を成功させるためには、継続的な努力が必要です。目標に向けて進む過程において、プロジェクトの実践で得られた体験をフィードバックとして、継続的な改善を図る必要があります。また、プロジェクトチームと定期的にプロジェクトや進捗状況、優先事項について話し合い、常に全員の足並みを揃え、プロジェクトのスムーズな進行を図ることも非常に大切です。

MDMを活用し、データの一元化を通してビジネスの成長を促進する詳しい方法については、

info@stibosystems.comまでEメールでお問い合わせいただくか、公式ウェブサイト (stibosystems.com) をご覧ください。

About Stibo Systems

Stibo Systems, the master data management company, is the trusted source of MDM solutions based on a unique business-first, people-centric approach. Our solutions are the driving force behind forward-thinking companies around the world that have unlocked the strategic value of their master data; empowering them to improve the customer experience, drive innovation and growth, and create an essential foundation for digital transformation. Stibo Systems is a privately held subsidiary of the Stibo A/S group, founded in 1794, and is headquartered in Aarhus, Denmark. For more information, visit stibosystems.com.